

五戸総合病院での研修を終えて

大阪公立大学医学部付属病院 初期研修医 2年次 川井秀平

令和6年度8月に五戸総合病院にて地域医療研修をさせていただきました、大阪公立大学医学部付属病院初期研修医の川井秀平です。まず初めに、安藤院長始め1カ月間お世話になった五戸総合病院の皆様に感謝申し上げます。

今回の青森での地域実習が始まるまでは様々な期待と不安を抱えていました。普段と違う環境での生活ということで楽しみが膨らむ一方、これまで一人暮らしをしたことがなく都会でしか生活したことがない自分が青森県五戸町という場所でのいわば“田舎暮らし”でうまくやっていけるのか、大学病院での研修経験しかない自分が地域医療における患者の期待に応える医療を十分に提供できるのか、一人で外来患者や救急搬送されてきた患者を扱うことができるのかなどきりがありませんでした。

五戸総合病院での勤務が始まり特に最初の一週間は実際に不安ばかりでした。慣れない紙カルテと共に初めての外来業務から始まり安藤先生や看護師の方々に頼ってばかりでした。次第に慣れていく中で安藤院長から何度も言われた”一人で考えてやっていいんだよ”という言葉にハッとさせられました。今まで大学病院での研修は医師も多く何をするにしても上級医に相談し受け身になってしまっている自分がいましたが今回の地域研修で自分を変えようと決心しました。自分で入院患者の検査、治療、今後の方針などを考えて進めていき退院まで見届けるということを経験しその難しさと共に自ら考えて行う本来あるべき医療の面白さ、やりがいを実感することができました。今後は患者一人一人の背景も考えた上でベストな医療を提供できる医師になれるように励んでいこうと思います。

また外来業務、救急業務でも新たな刺激を受けることができました。私の勤務する大学病院は三次救急のみを扱っており一般的な一次、二次救急は経験したことがほとんどありませんでした。外来業務や救急業務でも安藤先生にいつでも相談できる状況ではありますが基本的には一人に対応させていただき、最初は不安でひたすら参考書を読みおびえている自分がいましたが患者数、知識を重ねていく中でいい意味での度胸、どんな患者が来ても対応してやるというむしろ前向きな気持ちになっている自分がいて今回の五戸総合病院での地域研修において自分の中で一番の成長だったのではないかと考えております。

訪問診療に関しても初めての経験であり様々な理由で医療機関を受診することが難しい患者、最期は家庭で家族と過ごしながら生活したいという患者などを定期的に訪問しました。患者の不安の訴えももちろんですが支えている家族の訴えを聞くことも非常に大事であると気づき患者を取り囲む環境全てを視野広く見る力がついたかと思います。

仕事以外でも新しい発見がありました。生まれも育ちも大阪市内の“City Boy”を自覚していた私ですが五戸町で一カ月暮らしてみて自分には都会の忙しい時の流れの中で生活す

るより田舎での悠々とした環境の方があっているのではないかと感じました。将来のどこかでは都会を離れゆったりとした時の流れの中で生活しまたご縁があれば地域医療にも貢献することができればいいなと考えております。

最後になりましたが五戸総合病院、青森県五戸町での一ヶ月の生活で医師として成長できたことはもちろん、様々な地元の人との交流で様々な価値観に触れどこか人としても成長できたと感じております。安藤先生の医師としての生き様も心に響くものがありました。確実に今後の私の医師生活において大切な1ページになりました。この経験を活かし成長しどんな環境下でも活躍できる立派な外科医になります。いつか必ず五戸町を訪れ、若き自分を思い出し美味しい馬肉と日本酒でも嗜めたらなと思います。ありがとうございました。